

災害や犯罪に強い 安全・安心のまちづくり

関西学院大学
室崎益輝

はじめに

災害やリスクの多様化や慢性化さらには巨大化が進みつつある



災害の多様化に対応するための、新しい防備のシステムの構築をはかる必要がある




安全・安心まちづくりの展開




①災害・リスクの動向

災害・リスクの激甚化

- ▶ 自然災害での被害の態様は、加害側の破壊力と被害側の防御力との相対的な関係により、規定される
 - ▶ 自然災害は、ハザード(自然の凶暴化)とバルナラビリティ(社会の脆弱化)が複合する形で、増大している
 - ①自然の凶暴化は、自然の周期循環に加えて、自然の疲弊によってもたらされている・・自然の疲弊は、地球環境の破壊によって加速している
 - ②社会の脆弱化は、社会の人口変化に加えて、社会の腐敗によってもたらされている・・社会の腐敗は、 拝金主義の蔓延によって加速している
-
- 

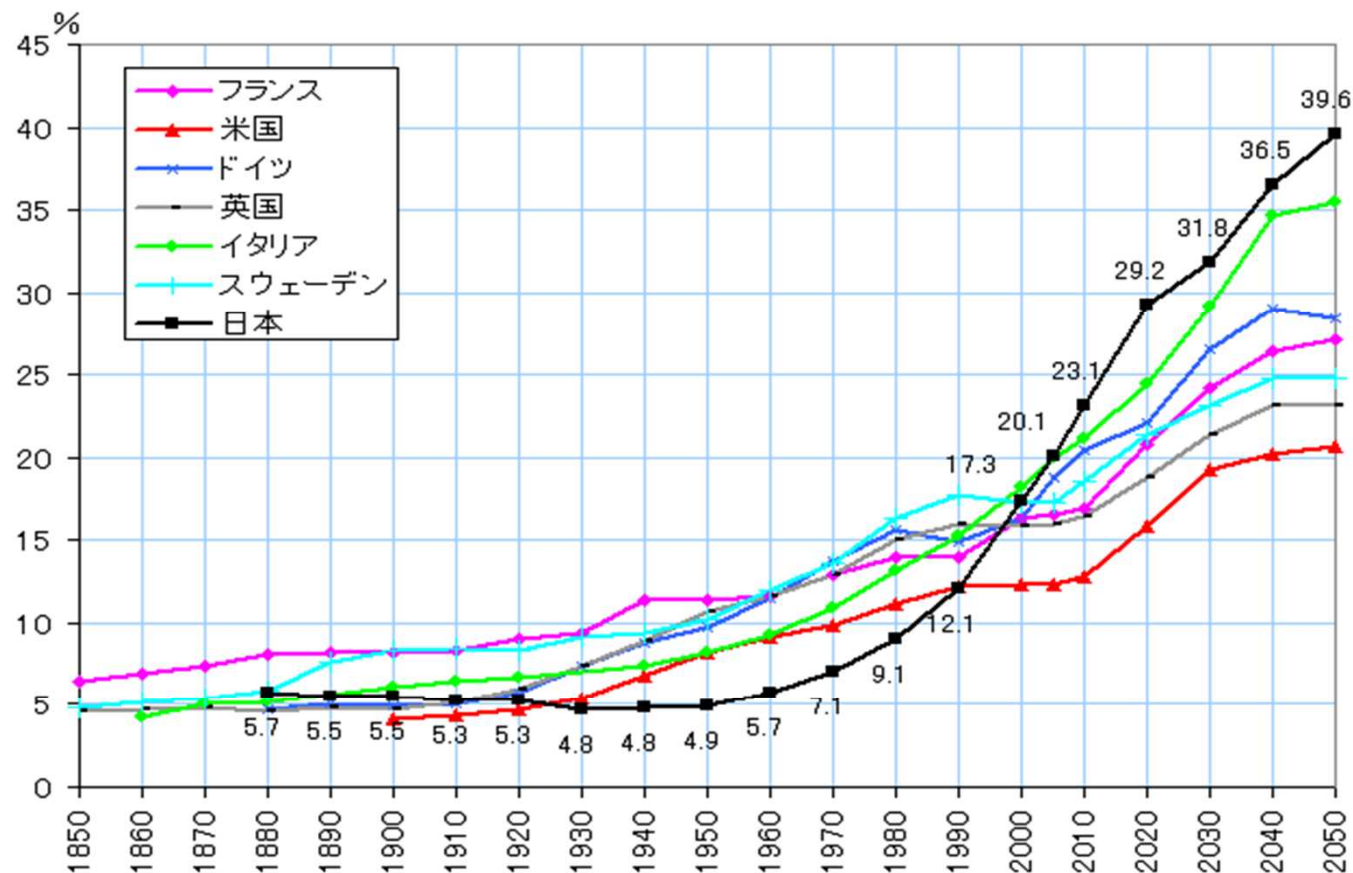
災害・リスクの多様化

様々な災害や事故さらには犯罪などが、人間の命を脅かしている・・・備えるべきは地震だけではない！

- ▶ 地震、洪水、台風、雪害など天変地異
 - ▶ インフルエンザ、BSE、口蹄疫、食中毒など生物感染
 - ▶ 溺死事故、危険物災害、群衆事故など過失事故
 - ▶ 放火、誘拐、殺人、テロなど凶悪犯罪
 - ▶ 汚職背任、管理瑕疵、放漫経営など組織ミス
-
- 

人口構成の変化

主要国における人口高齢化率の長期推移・将来推計

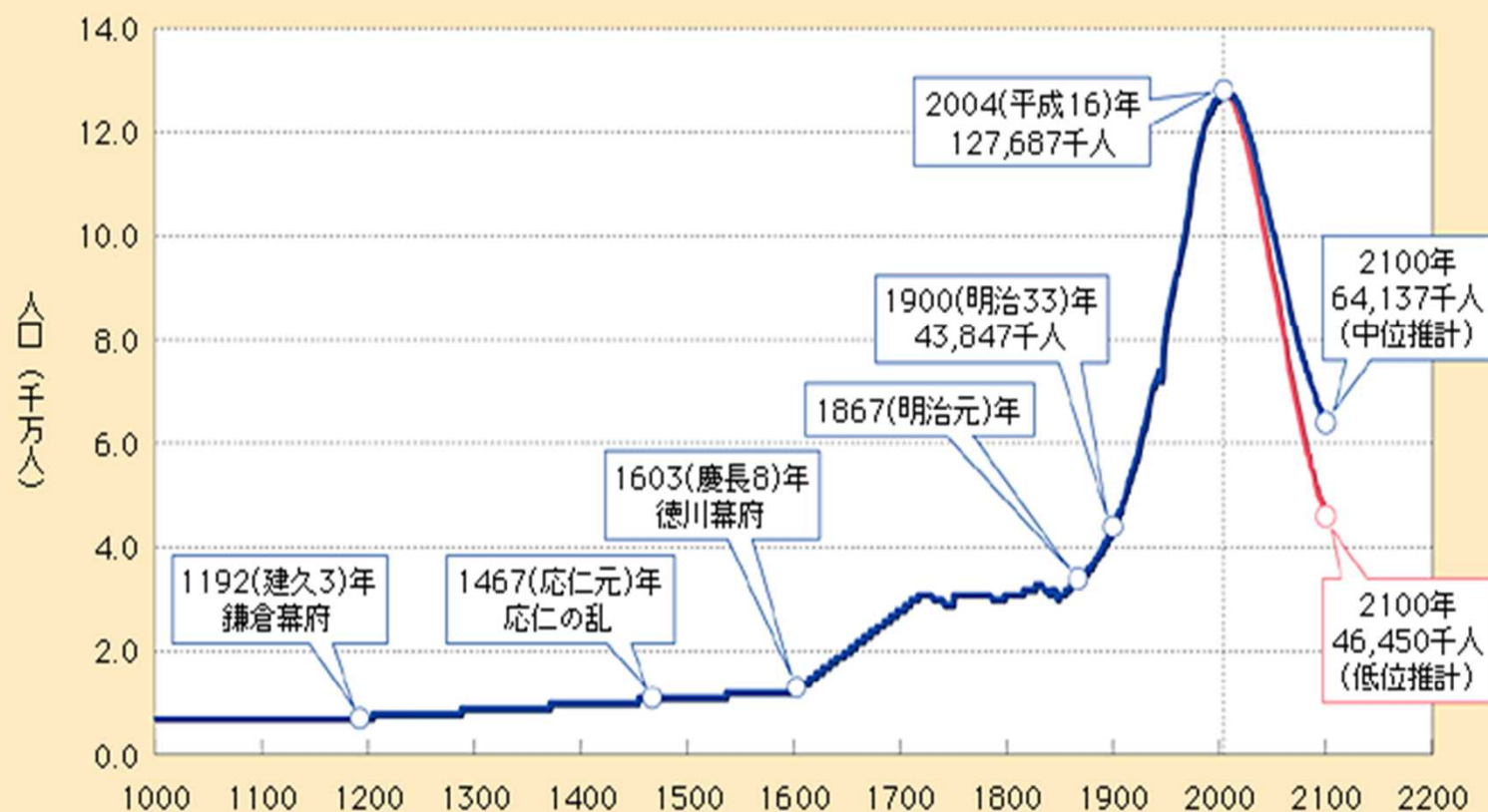


(注) 65歳以上人口比率。1940年以前は国により年次に前後あり。ドイツは全ドイツ。
日本は1950年以降国調ベース、2005年迄は実績値。諸外国は2004年改訂国連推計。

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口資料集2006」

同「日本の将来推計人口（平成18年12月推計、出生中位（死亡中位）推計値）」

人口構成の変化



資料：1872年以前は、鬼頭宏「人口から読む日本の歴史」講談社（2000年）、森田優三「人口増加の分析」日本評論社（1944年）による。1872年から2004年までは総務省統計局「国勢調査」、「10月1日現在推計人口」による。2005年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」。

注：推計値のうち、2051年から2100年までは参考推計。

集中豪雨のリスク

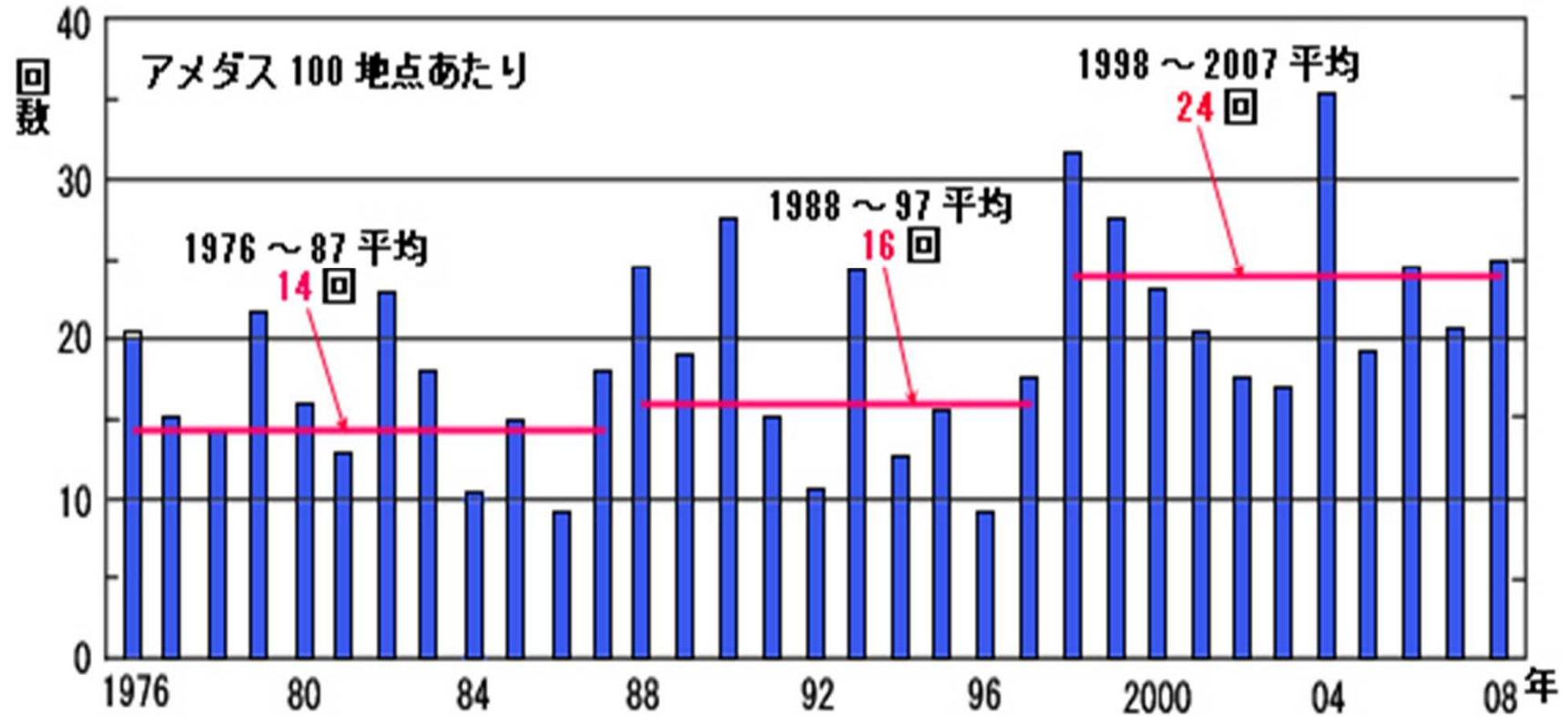
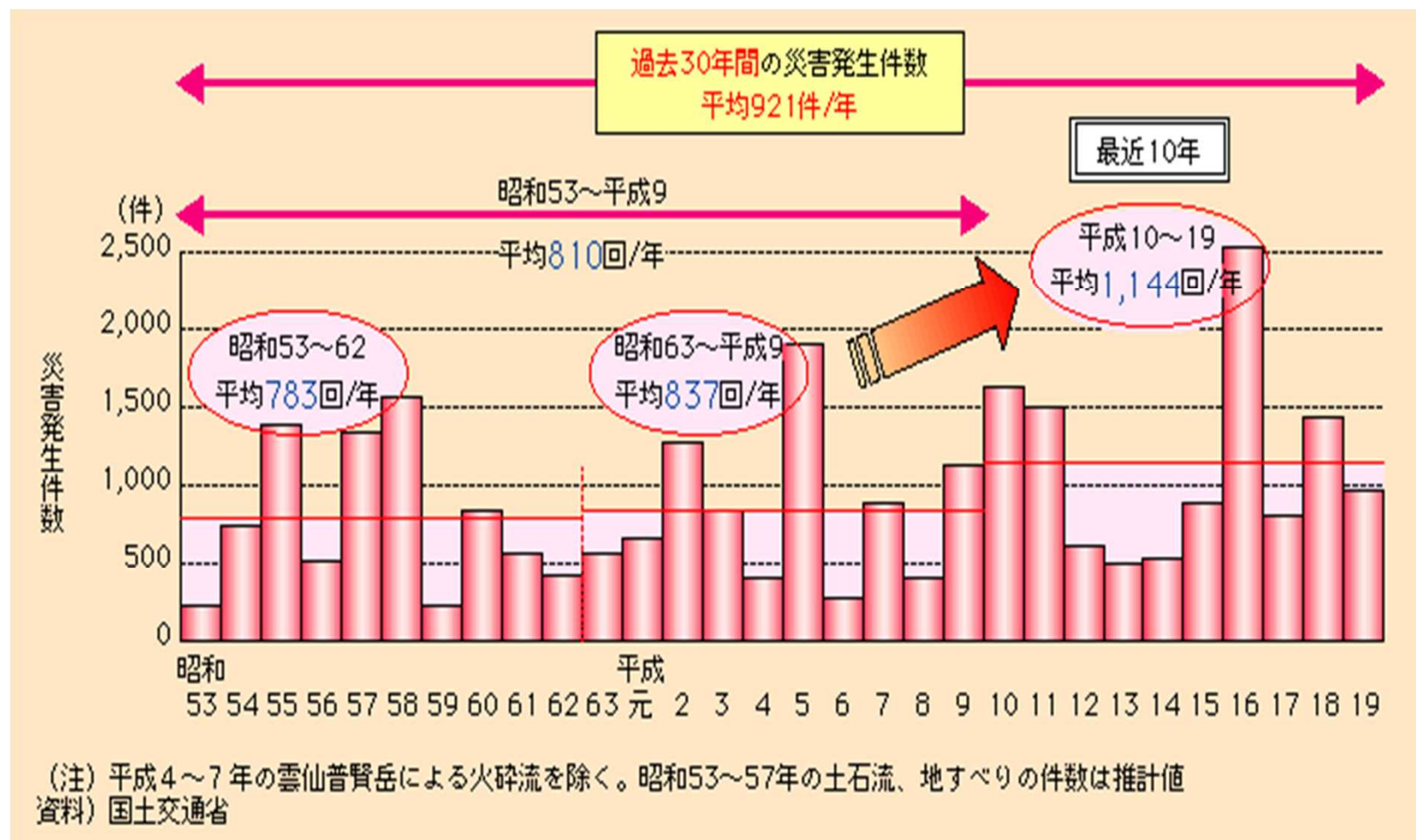


図 51 1 時間雨量 50mm を超える豪雨の回数 (気象庁)

土砂災害のリスク

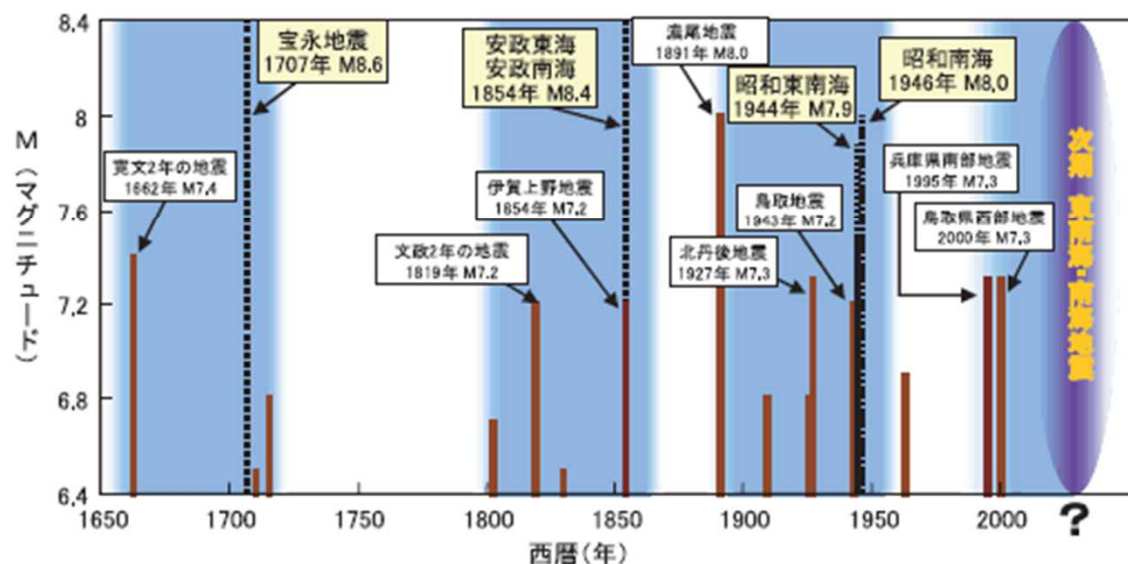
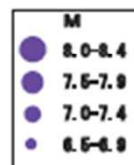


西日本の地震リスク

図2-3-47 西日本の内陸における地震活動

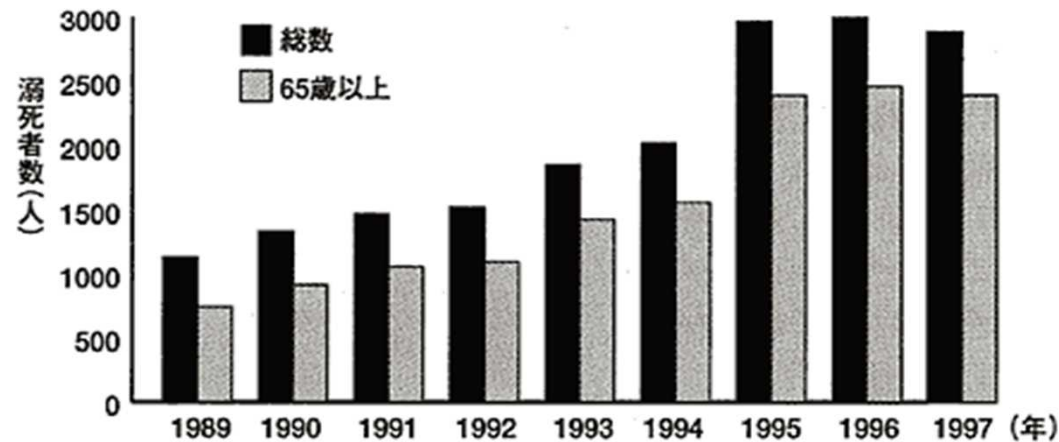
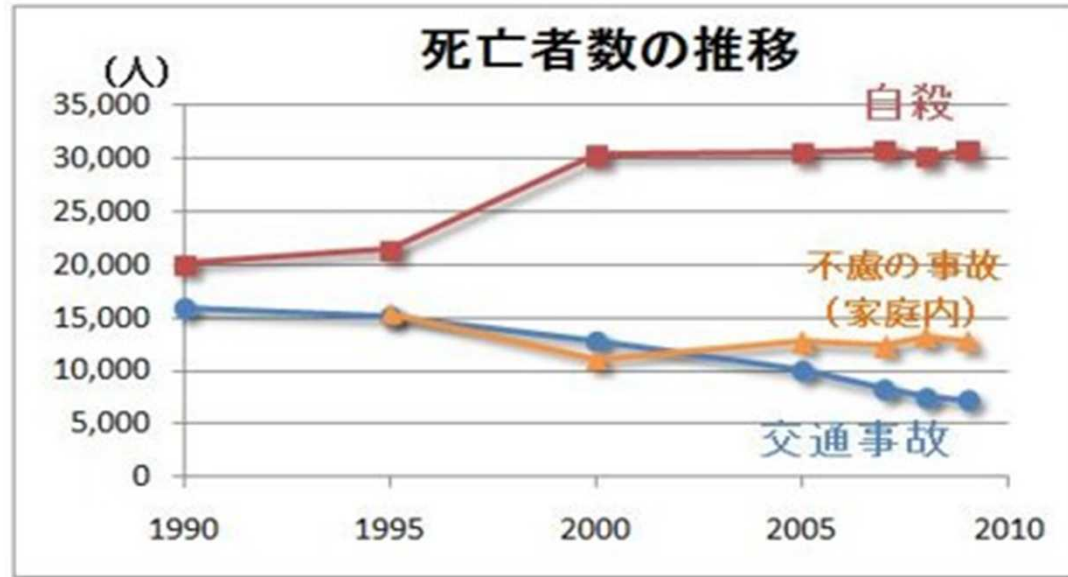


西日本の内陸で発生した地震の震央分布
(1650年以降, 深さ30km以浅, M6.5以上)

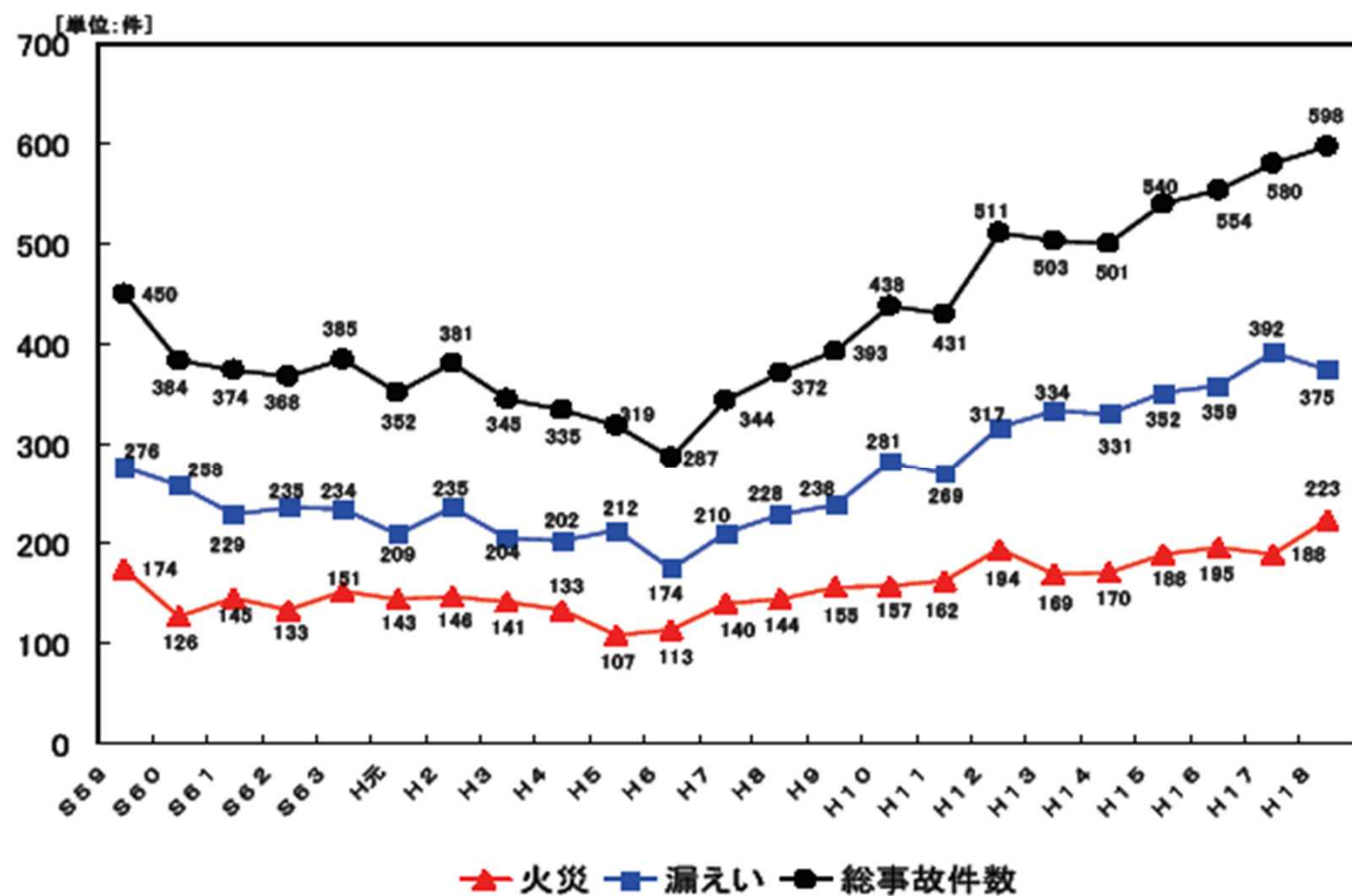


- 領域内で発生した地震
高さはMの大きさ
- ⋮ 東南海, 南海地震の
発生年
- 東南海, 南海地震の発
生前後に, 内陸の地震
活動が活発化している
と想定される概ねの期
間(約60年間)

人為事故のリスク

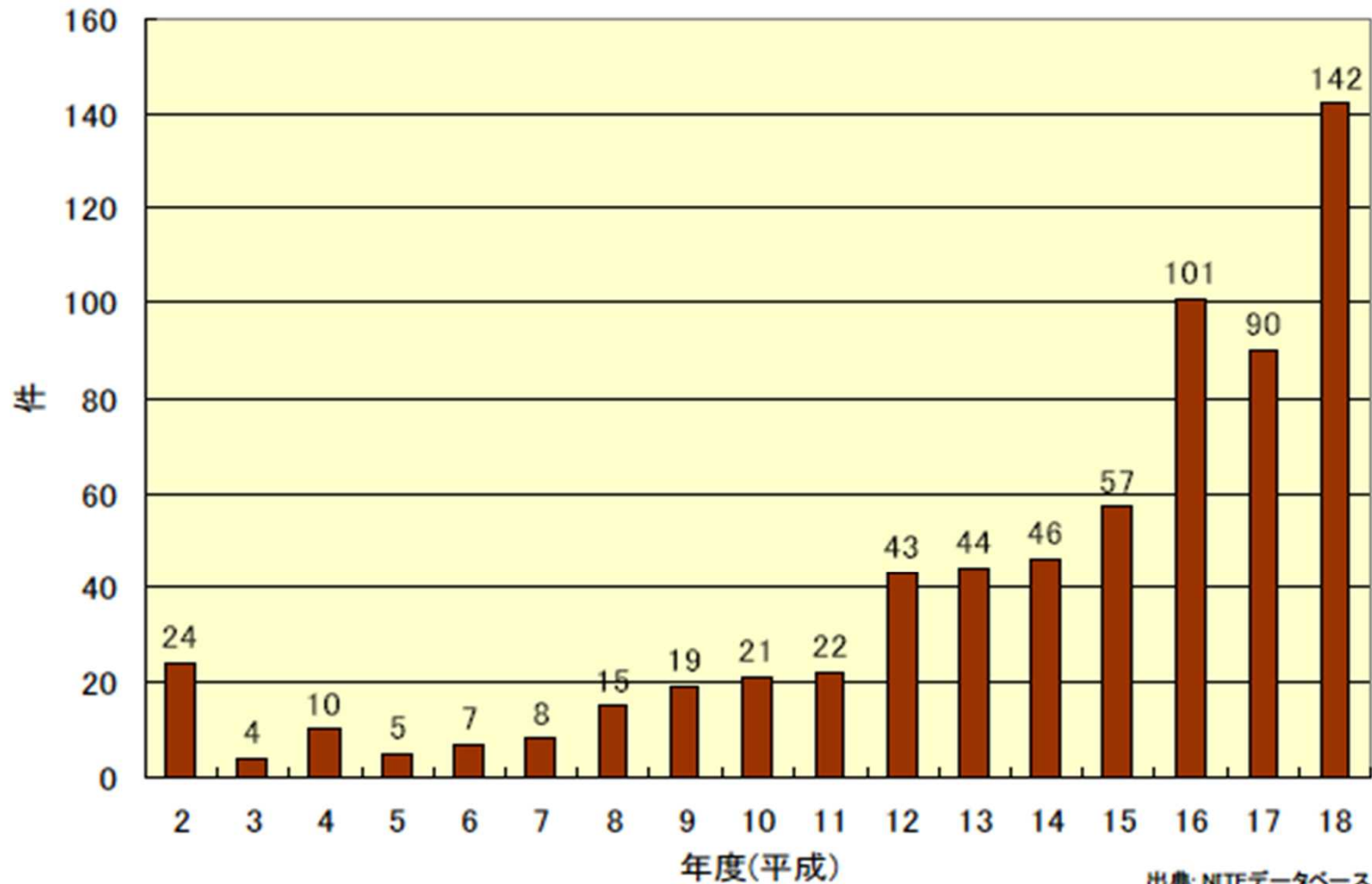


危険物災害のリスク



製品トラブルのリスク

製品安全に係るリコール件数

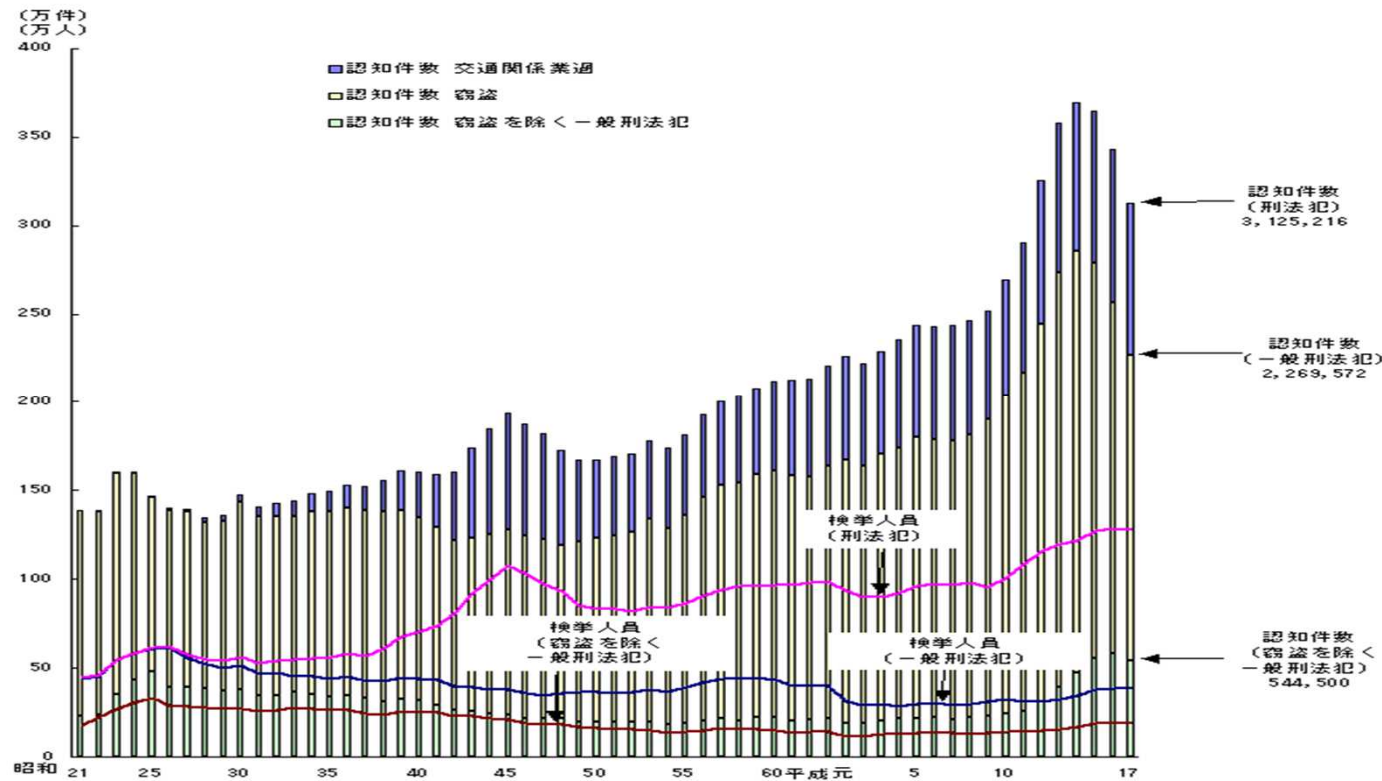


出典: NITEデータベース

犯罪のリスク

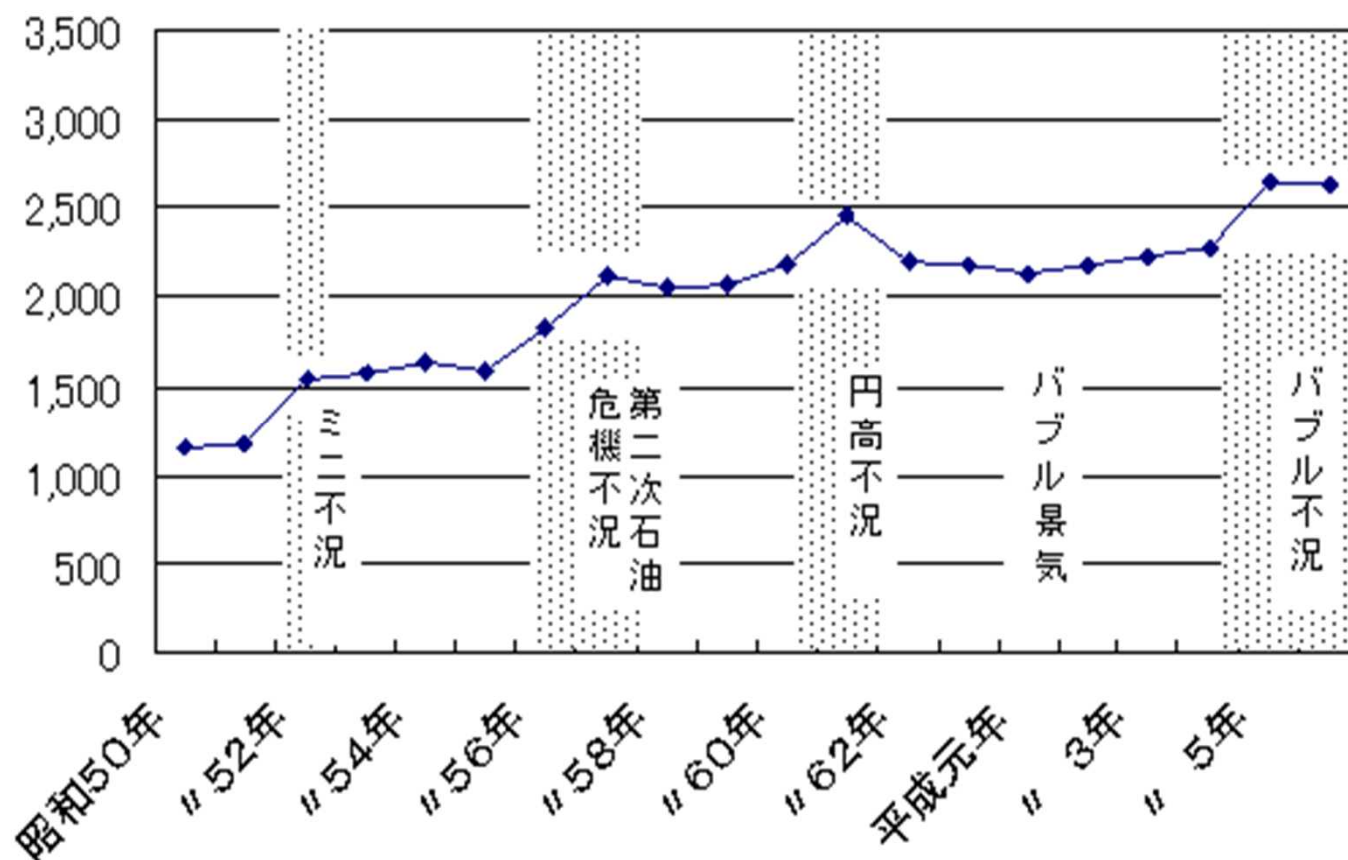
第1図 刑法犯の認知件数・検挙人員の推移

(昭和21年～平成17年)



注 1 警察庁の統計による。
 2 昭和30年以前は、14歳未満の者による触法行為を含む。
 3 昭和40年以前の一般刑法犯は、「業過を除く刑法犯」である。

放火のリスク



②危機に備える新しい防災の考え方

新しい防災・・・3つのキーワード

災害の多様化や巨大化は、防災の進化を促している



- ①安全安心・・・多様化に能動的に備える
- ②危機管理・・・多様化と巨大化に戦略的に備える
- ③減災・・・巨大化に包括的に備える



「絵に描いた餅」からの脱皮をはかる



安全・安心

安全・・・リスクを多面的に把握する

自然災害だけでなく、社会的リスクも

安心・・・安全を能動的に獲得する

備えを尽くして、心の安らぎを得る



公衆衛生的な備えを重視する



危機管理

危機を、科学的に予見し、実践的に制御する
リスクマネジメントとクライシスマネジメント



危機管理の手法

- ①多様なリスクに対応する・・横断的手法
- ②目標と実行管理を追求する・・戦略的手法
- ③即地での即決を優先する・・実戦的手法



減災

哲学的概念・・大きな自然に対する小さな人間
実践的概念・・対策の足し算による被害の引き算



- ①時間の足し算・・事前、最中、事後
- ②人間の足し算・・行政、コミュニティ、NPO、企業
- ③手段の足し算・・ハード、ソフト、ハート
- ④空間の足し算・・大きな公共と小さな公共



③安全・安心まちづくり

新しい防災とまちづくり

まちづくり・・・まち＋つくり

まち・・・街でもなく町でもない「まち」
つくり・・・手づくりの「つくり」



減災の具体化

事前の体質改善

地域に密着した協働

小さな公共を創る

ハードとソフトの融合



事前の備えとまちづくりの課題

事前の備えとまちづくり

① 予防医学的課題・被害を受けないために

家具の転倒防止、家屋の耐震補強、火器の出火防止

② 緊急治療的課題・被害を広げないために

救命器具の準備、消火器具の準備、避難装備の準備

③ 回復再生的課題・被害を和らげるために

コミュニティケア、義援金と共済保険

④ 公衆衛生的課題・被害を超越するために

コミュニティ連帯、環境管理、環境共生、まちづくり



対策の融合とまちづくりの課題

対策の融合とまちづくり(広義)

①ひとづくり・地域での防災教育

災害に強い人を育てる

②ことづくり・地域での防災イベント

防災につながる祭礼や慣習を育む

③しくみづくり・地域での防災態勢

自主防災組織、高齢者見守り体制、安心ネットワーク

④まちづくり・地域での防災空間

構造、インフラ、装備、緑と水



参考文献

「安全・安心のまちづくり」 児玉桂子ほか ぎょうせい

「安全・安心のまちづくり」 日本建築学会 丸善

「防災対策と危機管理」 市町村アカデミー ぎょうせい

「公共空間としての都市」 西村幸夫ほか 岩波書店

